

2026年5月3日

主日礼拝

礼拝讃美歌⇒366番 (SK 姉)

『十字架を負いつつ』

聖書⇒ルカによる福音書 3章 16~21節 (MM 姉)

『神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。それが、もう裁きになっている。悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ないからである。しかし、真理を行う者は光の方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが、明らかになるために。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒438番

『神はひとり子を』

聖書⇒詩編 139編 1~12, 23~24節 (KT 姉)

『主よ、あなたはわたしを究め／

わたしを知っておられる。

座るのも立つのも知り／

遠くからわたしの計らいを悟っておられる。

歩くのも伏すのも見分け／

わたしの道にことごとく通じておられる。

わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに／

主よ、あなたはすべてを知っておられる。

前からも後ろからもわたしを囲み／

御手をわたしの上に置いていてくださる。

その驚くべき知識はわたしを超え／

あまりにも高くて到達できない。

どこに行けば／

あなたの霊から離れることができよう。

どこに逃れれば、御顔を避けることができよう。

天に登ろうとも、あなたはそこにいまし／

陰府に身を横たえようとも／

見よ、あなたはそこにいます。

曙の翼を駆って海のかなたに行き着こうとも

あなたはそこにもいまし／

御手をもってわたしを導き／

右の御手をもってわたしをとらえてくださる。

わたしは言う。

「闇の中でも主はわたしを見ておられる。

夜も光がわたしを照らし出す。」

闇もあなたに比べれば闇とは言えない。

夜も昼も共に光を放ち／

闇も、光も、変わるところがない。

神よ、わたしを究め／

わたしの心を知ってください。

わたしを試し、悩みを知ってください。

御覧ください／

わたしの内に迷いの道があるかどうかを。

どうか、わたしを／

とこしえの道に導いてください。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒481 番 (KH 姉)

『いつかは知らねど』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11 章 23~26 節 (KH 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。

わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、
主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒154 番
『罪も咎も汚れもなき』

《建徳》

聖書⇒ルカによる福音書 2 章 39 節 (YN 兄)

『親子は主の律法で定められたことをみな終えたので、自分たちの町であるガリラヤのナザレに帰った。』

聖書⇒ルカによる福音書 4 章 4, 8, 12 節

『イエスは、「『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」とお答えになった。

イエスはお答えになった。「『あなたの神である主を拝み、／ただ主に仕えよ』／と書いてある。」

イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』とされている」とお答えになった。』

聖書⇒申命記 8 章 3 節

『主はあなたを苦しめ、飢えさせ、あなたも先祖も味わったことのないマナを食べさせられた。人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに知らせるためであった。』

聖書⇒申命記 6 章 13 節

『あなたの神、主を畏れ、主にのみ仕え、その御名によって誓いなさい。』

聖書⇒申命記 6 章 16 節

『あなたたちがマサにいたときにしたように、あなたたちの神、主を試してはならない。』

聖書⇒ルカによる福音書 5 章 14 節

『イエスは厳しくお命じになった。「だれにも話してはいけない。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めたとおりに清めの献げ物をし、人々に証明しなさい。』』

聖書⇒テモテへの手紙一 2 章 5 節

『神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 10 章 19~20 節

『それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。イエスは、垂れ幕、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 2 章 1~5, 6~11 節 (KH 兄)

『三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があつて、イエスの母がそこにいた。イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。ぶどう酒が足りなくなつたので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。

そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあつた。いずれも二ないし三メートル入りのものである。イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。イエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで行った。世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかつたので、花婿を呼んで、言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわつたところに劣つたものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行つて、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。』

礼拝讃美歌⇒327 番 (KH 兄)

『われの時』

《建徳要旨》